

祇園小学校 校長だより（第63号） 令和2年度第4号 令和2年5月18日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## 人間を強く支えてくれるもの

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために臨時休校をしていましたが、本日から学校を再開しています。感染予防に配慮しつつ、教育活動の充実に努めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、五木寛之さんの著書「生きるヒント5」（平成10年、角川文庫）に、次のように書かれていました。一部引用しながらご紹介いたします。

ウイーンの精神科の医師フランクが、1940年代に体験したアウシュヴィッツ（ナチスドイツによるユダヤ人の強制収容所があった所。ほとんどの収容者がそこで死を遂げた。）での記録によると、地獄よりも凄惨と思われる極限状態のなかで、自殺をしたり、反抗して射殺されたり、栄養失調で死んだりせずに生きのびた人は、体が丈夫な人とか強い意志を持った人とは限らなかった。強い信仰を持った人、強い意志の力を持った人、最後まで希望を捨てなかった人、思想的に深い信念を持った人というふうに思いがちだが、フランクは、それだけではないと言う。むしろ小さな美に感動するとか、風景にみとれるとか、ちょっとした音楽に心惹かれるとか、そういった人のほうが生きのびる可能性が高かった。

五木さんは続けて、次のように書いておられます。

人間に生きる力を与えてくれるもの、それは大きな偉大なもの、立派な輝かしいものであると同時に、私たちが日常どうでもよいことのように思っている小さなこと、たとえば自然に感動するとか夕日の美しさにみとれるとか、あの歌はなつかしいなどってそのメロディーをロズさむとか、私たちが日常、趣味としてやっているようなこと、あるいは生活のアクセサリのようなことが、じつは人間を強く支えてくれる。…

夢や希望を持ち、たくましく生きることは大切なことですが、同時に、日常の小さなことにも関心を持ち、小さな感動を味わう感性も大事なことはないかと思い直しました。まだまだコロナウイルスが心配ですが、学校や家庭・社会の中で、大人も子どもも日常のことに関心を持ち、身近なところから感動を覚えるような生活を送っていききたいものです。

## 祇園歴史の旅（その63）「3周年の祇園小とその時代」

祇園小学校沿革史によると、平成16年9月7日台風による臨時休校、10月20日再び台風による臨時休校、11月19日県・市指定算数科研究発表会があります。この当時も台風に悩まされていたようです。臨時休校はもうこりこりですが、自然災害や感染症への備えも大切です。

また、インターネット記事によると、当時の主な出来事は次のとおりです。平成16年4月1日国立大学が国立大学法人に、5月22日小泉首相2度目の訪朝で拉致被害者の子ども5人帰国、6月1日佐世保市で小6女児殺害事件、8月13日アテネ五輪開幕、9月17日同パラリンピック開幕、10月3日イチロー選手大リーグシーズン最多安打、11月1日お札のデザイン20年ぶりに一新。

今回は、「4周年の祇園小とその時代」と題して、4周年年度の祇園小学校の出来事や平成17年4月～18年3月までの日本内外の主な出来事などをご紹介いたします…。